

# 四半期報告書

(第54期第1四半期)

自 平成22年4月1日  
至 平成22年6月30日

パナホーム株式会社

(E 00624)

# 目 次

頁

表 紙

## 第一部 企業情報

### 第1 企業の概況

1 主要な経営指標等の推移	1
2 事業の内容	2
3 関係会社の状況	2
4 従業員の状況	2

### 第2 事業の状況

1 生産、受注及び販売の状況	3
2 事業等のリスク	3
3 経営上の重要な契約等	3
4 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析	4

### 第3 設備の状況

### 第4 提出会社の状況

#### 1 株式等の状況

(1) 株式の総数等	6
(2) 新株予約権等の状況	6
(3) 行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等	6
(4) ライツプランの内容	6
(5) 発行済株式総数、資本金等の推移	6
(6) 大株主の状況	6
(7) 議決権の状況	7

#### 2 株価の推移

#### 3 役員の状況

### 第5 経理の状況

#### 1 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表	10
(2) 四半期連結損益計算書	12
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	13

#### 2 その他

## 第二部 提出会社の保証会社等の情報

[四半期レビュー報告書]

## 【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成22年8月10日
【四半期会計期間】	第54期第1四半期（自平成22年4月1日至平成22年6月30日）
【会社名】	パナホーム株式会社
【英訳名】	PanaHome Corporation
【代表者の役職氏名】	取締役社長 藤井 康照
【本店の所在の場所】	大阪府豊中市新千里西町1丁目1番4号
【電話番号】	（代表）（06）6834-5111
【事務連絡者氏名】	経理担当 執行役員 北川 賀津雄
【最寄りの連絡場所】	東京都新宿区西新宿2丁目3番1号
【電話番号】	（代表）（03）6863-6111
【事務連絡者氏名】	東部営業経理部長 北野 幸治
【縦覧に供する場所】	パナホーム株式会社東京支社 （東京都新宿区西新宿2丁目3番1号） パナホーム株式会社神奈川支社 （横浜市都筑区中川中央1丁目28番9号） パナホーム株式会社名古屋支社 （名古屋市名東区一社1丁目83番地） パナホーム株式会社神戸支社 （神戸市中央区京町69番地） 株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号） 株式会社大阪証券取引所 （大阪市中央区北浜1丁目8番16号）

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第53期 第1四半期連結 累計(会計)期間	第54期 第1四半期連結 累計(会計)期間	第53期
会計期間	自平成21年4月1日 至平成21年6月30日	自平成22年4月1日 至平成22年6月30日	自平成21年4月1日 至平成22年3月31日
売上高(百万円)	46,569	50,309	260,388
経常損益(百万円)	△4,026	△3,065	5,141
四半期(当期)純損益(百万円)	△2,696	△2,601	2,428
純資産額(百万円)	113,530	113,322	117,417
総資産額(百万円)	195,449	191,846	198,047
1株当たり純資産額(円)	670.91	670.24	693.70
1株当たり四半期(当期)純損益 金額(円)	△16.04	△15.48	14.45
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益金額(円)	—	—	—
自己資本比率(%)	57.7	58.7	58.9
営業活動による キャッシュ・フロー(百万円)	△12,199	△4,980	15,531
投資活動による キャッシュ・フロー(百万円)	619	△544	2,997
財務活動による キャッシュ・フロー(百万円)	△1,330	△1,402	△3,319
現金及び現金同等物の四半期末 (期末)残高(百万円)	41,614	62,805	69,736
従業員数(人)	5,142	5,094	5,011

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 第53期第1四半期連結累計(会計)期間及び第54期第1四半期連結累計(会計)期間については1株当たり四半期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため、第53期については、潜在株式が存在しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額を記載しておりません。

## 2【事業の内容】

当第1四半期連結会計期間において、当社及び当社の関係会社が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社に異動はありません。

## 3【関係会社の状況】

当第1四半期連結会計期間において、重要な関係会社の異動はありません。

## 4【従業員の状況】

### (1) 連結会社の状況

平成22年6月30日現在

従業員数（人）	5,094
---------	-------

- (注) 1. 従業員数は就業人員数であります。  
2. 平均臨時従業員数は、臨時従業員の総数が従業員数の100分の10未満であるため記載を省略しております。

### (2) 提出会社の状況

平成22年6月30日現在

従業員数（人）	4,341
---------	-------

- (注) 1. 従業員数は就業人員数であります。  
2. 平均臨時従業員数は、臨時従業員の総数が従業員数の100分の10未満であるため記載を省略しております。

## 第2【事業の状況】

### 1【生産、受注及び販売の状況】

#### (1) 生産実績

当第1四半期連結会計期間における生産実績は、次のとおりであります。

セグメントの名称	当第1四半期連結会計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年6月30日)	前年同四半期比 (%)
住宅事業	15,291	97.0

- (注) 1. 当社グループは、事業区分が住宅事業の単一セグメントであり、セグメント情報の区分を変更していないため前年同四半期比を記載しております。
2. 金額は販売価格によっており、消費税等を含んでおりません。
3. 当社グループの製造部門における部材生産額を記載しております。

#### (2) 受注状況

当第1四半期連結会計期間における受注状況は、次のとおりであります。

セグメントの名称	受注高 (百万円)	前年同四半期比 (%)	受注残高 (百万円)	前年同四半期比 (%)
住宅事業	63,397	101.9	140,083	100.6

- (注) 1. 当社グループは、事業区分が住宅事業の単一セグメントであり、セグメント情報の区分を変更していないため前年同四半期比を記載しております。
2. 金額は販売価格によっており、消費税等を含んでおりません。

#### (3) 販売実績

当第1四半期連結会計期間における販売実績は、次のとおりであります。

セグメントの名称	当第1四半期連結会計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年6月30日)	前年同四半期比 (%)
住宅事業	50,309	108.0

- (注) 1. 当社グループは、事業区分が住宅事業の単一セグメントであり、セグメント情報の区分を変更していないため前年同四半期比を記載しております。
2. 金額は消費税等を含んでおりません。
3. 当社グループでは、建物の完成引渡し第2四半期・第4四半期に集中することから、通常、第1四半期の売上高の割合が相対的に低くなる傾向にあります。
4. 主な相手先別の販売実績及び総販売実績に対する割合は、当該割合が100分の10未満のため記載を省略しております。

### 2【事業等のリスク】

当第1四半期連結会計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。

また、前連結会計年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

### 3【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

## 4【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期報告書提出日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

### (1) 業績の状況

当第1四半期連結会計期間におけるわが国経済は、政府の経済政策の効果やアジア向けを中心とした輸出の増加により、企業収益には一部持ち直しの動きが見られました。しかしながら、雇用環境は依然として厳しく、加えて欧州における金融不安拡大の影響が懸念される等、依然として先行き不透明な状況が続いております。

住宅業界におきましては、所得減少ならびに雇用不安から依然として新築市場は本格的回復には至っていないものの、過去最大規模の住宅ローン減税、贈与税の軽減措置の拡大および住宅エコポイント制度など諸施策の効果により、持家の新設住宅着工戸数が8か月連続前年比増加するなど、一部に持ち直しの兆しが見られます。

このような状況のなか、戸建請負事業では「長期優良住宅」認定基準に標準対応し、ライフステージ別にラインナップしたNEW『エルソラーナ』の販売推進により顧客層の拡大を図るとともに、分譲事業では保有物件の販売促進により売上確保に努めました。また、資産活用事業におきましては、高齢者専用賃貸住宅の受注を拡大するため、「ケア付き高専賃・一括借上げシステム」をスタートさせました。

さらに、リフォーム事業におきましては、木造住宅やマンションなどの一般物件の大規模増改築のニーズ増大に応えるべく、設計・施工体制の強化、広告による市場への訴求など、基盤作りに注力しました。

以上の結果、当第1四半期連結会計期間の経営成績につきましては、売上高は503億9百万円（前年同期比8.0%増）となりました。利益につきましては、売上高の増加とコストダウンにより、営業利益は△26億4千5百万円（前年同期差10億1百万円改善）、経常利益は△30億6千5百万円（前年同期差9億6千1百万円改善）となりました。また、四半期純利益は、資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額3億7千3百万円を特別損失として計上したこと等により、△26億1百万円（前年同期差9千5百万円改善）となりました。

### (2) 財政状態の分析

#### ①資産、負債及び純資産の状況

当第1四半期連結会計期間末における資産総額は、1,918億4千6百万円であり前連結会計年度末比62億1百万円減少しました。その主な要因は、仕掛工事増加等により未成工事支出金が28億6千2百万円増加した一方、在庫削減への取組により販売用不動産が38億7千1百万円、工事未払金等の支払及び有価証券へのシフトにより現金預金が108億9千4百万円減少したことによるものです。

負債総額は、785億2千3百万円であり前連結会計年度末比21億7百万円減少しました。その主な要因は、仕掛工事増加に伴い未成工事受入金が45億2百万円増加した一方、支払手形・工事未払金等が59億5千8百万円減少したことによるものです。

純資産合計は、1,133億2千2百万円であり四半期純損失26億1百万円計上や配当金の支払等により前連結会計年度末比40億9千5百万円減少し、自己資本比率は58.7%となりました。

#### ②キャッシュ・フローの状況

当第1四半期連結累計期間末の現金及び現金同等物（以下、「資金」という。）の残高は、628億5百万円となり、前連結会計年度末に比べ69億3千万円減少しました。（現金及び現金同等物に係る換算差額を含む）

営業活動によるキャッシュ・フローは、49億8千万円の減少（前年同期に比べて72億1千9百万円増加）となりました。その主な内容は、未成工事受入金の増加（45億2百万円）などの資金の増加があった一方で、税金等調整前四半期純損失34億1千1百万円および仕入債務の減少（59億5千7百万円）などの資金の減少があったことによるものです。

投資活動によるキャッシュ・フローは、5億4千4百万円の減少（前年同期に比べて11億6千3百万円減少）となりました。その主な内容は、有形固定資産の取得による支出（3億4百万円）および無形固定資産の取得による支出（3億9千2百万円）などの資金の減少によるものです。

財務活動によるキャッシュ・フローは、14億2百万円の減少（前年同期に比べて7千2百万円減少）となりました。その主な内容は、配当金の支払額（12億6千1百万円）などの資金の減少によるものです。

### (3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結会計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

### (4) 研究開発活動

当第1四半期連結会計期間の研究開発費の総額は、3億7百万円であります。

なお、当第1四半期連結会計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

### 第3【設備の状況】

(1) 主要な設備の状況

当第1四半期連結会計期間において、主要な設備に重要な異動はありません。

(2) 設備の新設、除却等の計画

当第1四半期連結会計期間において、前連結会計年度末において計画中であった重要な設備の新設、除却等について、重要な変更はありません。また、新たに確定した重要な設備の新設、拡充、改修、除却、売却等の計画はありません。



## 第4【提出会社の状況】

### 1【株式等の状況】

#### (1)【株式の総数等】

##### ①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	596,409,000
計	596,409,000

##### ②【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末現在発行数(株) (平成22年6月30日)	提出日現在発行数(株) (平成22年8月10日)	上場金融商品取引所名又は登録認可金融商品取引業協会名	内容
普通株式	168,563,533	168,563,533	東京証券取引所市場第一部 大阪証券取引所市場第一部	単元株式数は 1,000株
計	168,563,533	168,563,533	—	—

#### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

#### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

#### (4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

#### (5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金 増減額 (百万円)	資本金 残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成22年4月1日 ～平成22年6月30日	—	168,563	—	28,375	—	31,953

#### (6)【大株主の状況】

大量保有報告書等の写しの送付等がなく、当第1四半期会計期間において、大株主の異動は把握しておりません。

## (7) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成22年3月31日）に基づく株主名簿による記載をしております。

## ① 【発行済株式】

平成22年6月30日現在

区分	株式数（株）	議決権の数（個）	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式（自己株式等）	—	—	—
議決権制限株式（その他）	—	—	—
完全議決権株式（自己株式等）	(自己保有株式) 普通株式 466,000 (相互保有株式) 普通株式 67,000	—	単元株式数は1,000株
完全議決権株式（その他）	普通株式 166,744,000	166,744	同上
単元未満株式	普通株式 1,286,533	—	1単元（1,000株） 未満の株式
発行済株式総数	168,563,533	—	—
総株主の議決権	—	166,744	—

## ② 【自己株式等】

平成22年6月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数の 合計（株）	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合（%）
(自己保有株式) パナホーム(株)	大阪府豊中市新千里西 町1丁目1-4	466,000	—	466,000	0.27
(相互保有株式) (株)パナホーム北関東	栃木県宇都宮市平出町 4067-3	12,000	—	12,000	0.00
(株)パナホーム山梨	山梨県甲府市上石田4 丁目12-1	9,000	—	9,000	0.00
神奈川西パナホーム(株)	神奈川県平塚市明石町 2-14	1,000	—	1,000	0.00
(株)パナホーム静岡	静岡県浜松市中区砂山 町324-8	21,000	—	21,000	0.01
京都パナホーム(株)	京都市山科区西野櫃川 町50-1	19,000	—	19,000	0.01
(株)パナホーム伊賀	三重県名張市美旗町池 の台東6	3,000	—	3,000	0.00
(株)パナホーム兵庫	兵庫県姫路市三左衛門 堀西の町205-2	1,000	—	1,000	0.00
(株)パナホーム大分	大分市中島西3丁目5 -1	1,000	—	1,000	0.00
(相互保有株式小計)	—	67,000	—	67,000	0.03
計	—	533,000	—	533,000	0.31

(注) なお、当第1四半期会計期間末日現在、神奈川西パナホーム(株)が保有していた相互保有株式はすべて市場売却しております。

## 2【株価の推移】

【当該四半期累計期間における月別最高・最低株価】

月別	平成22年4月	5月	6月
最高（円）	635	624	565
最低（円）	598	521	515

（注） 最高・最低株価は、東京証券取引所市場第一部におけるものであります。

## 3【役員の様況】

前事業年度の有価証券報告書の提出日後、当四半期報告書の提出日までにおいて、役員および専任の執行役員の異動はありません。

## 第5【経理の状況】

### 1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号。以下「四半期連結財務諸表規則」という。）に基づいて作成し、「建設業法施行規則」（昭和24年建設省令第14号）に準じて記載しております。

なお、前第1四半期連結会計期間（平成21年4月1日から平成21年6月30日まで）及び前第1四半期連結累計期間（平成21年4月1日から平成21年6月30日まで）は、改正前の四半期連結財務諸表規則に基づき、当第1四半期連結会計期間（平成22年4月1日から平成22年6月30日まで）及び当第1四半期連結累計期間（平成22年4月1日から平成22年6月30日まで）は、改正後の四半期連結財務諸表規則に基づいて作成しております。

### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、前第1四半期連結会計期間（平成21年4月1日から平成21年6月30日まで）及び前第1四半期連結累計期間（平成21年4月1日から平成21年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表並びに当第1四半期連結会計期間（平成22年4月1日から平成22年6月30日まで）及び当第1四半期連結累計期間（平成22年4月1日から平成22年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】  
 (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	当第1四半期連結会計期間末 (平成22年6月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金預金	18,889	29,783
受取手形・完成工事未収入金等	3,747	2,984
有価証券	44,000	40,000
未成工事支出金	9,408	6,546
販売用不動産	39,136	43,007
商品及び製品	1,143	877
仕掛品	53	15
原材料及び貯蔵品	172	101
その他	8,029	6,660
貸倒引当金	△54	△47
流動資産合計	124,527	129,928
固定資産		
有形固定資産		
土地	21,214	21,214
その他（純額）	17,626	17,875
有形固定資産計	※1 38,841	※1 39,089
無形固定資産		
無形固定資産	2,819	2,855
投資その他の資産		
投資有価証券	7,833	8,548
その他	18,716	18,524
貸倒引当金	△892	△900
投資その他の資産計	25,657	26,173
固定資産合計	67,318	68,118
資産合計	191,846	198,047

(単位：百万円)

	当第1四半期連結会計期間末 (平成22年6月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形・工事未払金等	23,881	29,839
短期借入金	50	100
未払法人税等	101	344
未成工事受入金	19,009	14,506
賞与引当金	1,100	2,502
完成工事補償引当金	2,960	3,265
売上割戻引当金	47	6
その他	12,100	11,233
流動負債合計	59,250	61,799
固定負債		
長期借入金	2,610	2,610
退職給付引当金	4,716	4,610
資産除去債務	498	—
その他	11,448	11,610
固定負債合計	19,273	18,830
負債合計	78,523	80,630
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	28,375	28,375
資本剰余金	31,983	31,983
利益剰余金	59,235	63,098
自己株式	△263	△262
株主資本合計	119,331	123,195
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	80	157
土地再評価差額金	△6,770	△6,770
為替換算調整勘定	△0	1
評価・換算差額等合計	△6,690	△6,611
少数株主持分	681	833
純資産合計	113,322	117,417
負債純資産合計	191,846	198,047

(2) 【四半期連結損益計算書】  
【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年6月30日)
売上高	46,569	50,309
売上原価	36,436	39,534
売上総利益	10,133	10,775
販売費及び一般管理費	※1 13,780	※1 13,420
営業損失(△)	△3,646	△2,645
営業外収益		
受取利息	69	55
受取配当金	5	6
その他	80	81
営業外収益合計	155	144
営業外費用		
支払利息	50	36
持分法による投資損失	432	476
その他	52	51
営業外費用合計	535	564
経常損失(△)	△4,026	△3,065
特別利益		
固定資産売却益	0	1
貸倒引当金戻入額	7	4
負ののれん発生益	—	36
特別利益合計	8	42
特別損失		
固定資産除売却損	17	9
減損損失	2	5
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	—	373
特別損失合計	20	388
税金等調整前四半期純損失(△)	△4,038	△3,411
法人税等	△1,312	△757
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	—	△2,654
少数株主損失(△)	△30	△52
四半期純損失(△)	△2,696	△2,601

## (3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純損失(△)	△4,038	△3,411
減価償却費	734	725
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	—	373
賞与引当金の増減額(△は減少)	△1,714	△1,401
受取利息及び受取配当金	△74	△62
支払利息	50	36
負ののれん発生益	—	△36
持分法による投資損益(△は益)	432	476
売上債権の増減額(△は増加)	303	△493
たな卸資産の増減額(△は増加)	△6,404	632
仕入債務の増減額(△は減少)	△8,040	△5,957
未成工事受入金の増減額(△は減少)	5,328	4,502
未払費用の増減額(△は減少)	4,339	3,680
その他	△2,986	△3,905
小計	△12,071	△4,841
利息及び配当金の受取額	112	105
利息の支払額	△66	△56
法人税等の支払額	△173	△187
営業活動によるキャッシュ・フロー	△12,199	△4,980
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有価証券の売却及び償還による収入	1,005	—
有形固定資産の取得による支出	△317	△304
有形固定資産の売却による収入	13	2
無形固定資産の取得による支出	△256	△392
投資有価証券の売却及び償還による収入	10	—
貸付金の回収による収入	137	165
その他	26	△15
投資活動によるキャッシュ・フロー	619	△544
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額(△は減少)	△1	△50
自己株式の取得による支出	△5	△2
配当金の支払額	△1,260	△1,261
ファイナンス・リース債務の返済による支出	△61	△87
その他	0	△1
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,330	△1,402
現金及び現金同等物に係る換算差額	—	△2
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△12,909	△6,930
現金及び現金同等物の期首残高	54,524	69,736
現金及び現金同等物の四半期末残高	※1 41,614	※1 62,805



【四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更】

	当第1四半期連結会計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年6月30日)
1. 会計処理基準に関する事項の変更	<p>(1) 資産除去債務に関する会計基準の適用</p> <p>当第1四半期連結会計期間より、「資産除去債務に関する会計基準」(企業会計基準第18号 平成20年3月31日)及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日)を適用しております。これにより、営業損失及び経常損失は17百万円増加し、税金等調整前四半期純損失は390百万円増加しております。なお、当会計基準等の適用開始による資産除去債務の変動額は492百万円であります。</p> <p>(2) 企業結合に関する会計基準等の適用</p> <p>当第1四半期連結会計期間より、「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成20年12月26日)、「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成20年12月26日)及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第10号 平成20年12月26日)を適用しております。</p>

【表示方法の変更】

	当第1四半期連結会計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年6月30日)
(四半期連結損益計算書関係)	<p>「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成20年12月26日)に基づく「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」(平成21年3月24日 内閣府令第5号)の適用により、当第1四半期連結累計期間では、「少数株主損益調整前四半期純損失」の科目で表示しております。</p>

【簡便な会計処理】

	当第1四半期連結会計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年6月30日)
繰延税金資産及び繰延税金負債の算定方法	<p>繰延税金資産の回収可能性の判断に関しては、前連結会計年度末以降に経営環境等、かつ、一時差異等の発生状況に著しい変化がないと認められるので、前連結会計年度において使用した将来の業績予測を利用する方法によっております。</p>

【四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理】

	当第1四半期連結会計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年6月30日)
税金費用の計算	<p>税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純損益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純損益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。</p> <p>なお、法人税等調整額は、法人税等を含めて表示しております。</p>

【追加情報】

	当第1四半期連結会計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年6月30日)
(有形固定資産の耐用年数の変更)	<p>展示場の保有形態及び使用状況の見直しを行ったところ、展示場の利用がより長期化する傾向にあることから、実態を勘案し、当第1四半期連結会計期間より、建物及び構築物の一部(展示場)の耐用年数を従来の3年から5年に変更しております。この変更による損益への影響は軽微であります。</p>

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

当第1四半期連結会計期間末 (平成22年6月30日)	前連結会計年度末 (平成22年3月31日)
※1. 有形固定資産の減価償却累計額 49,170百万円	※1. 有形固定資産の減価償却累計額 48,802百万円
2. 保証債務 住宅ローン及びつなぎローン利用によるパナホーム購入者のために提携金融機関に対して保証している金額は7,725百万円であります。	2. 保証債務 住宅ローン及びつなぎローン利用によるパナホーム購入者のために提携金融機関に対して保証している金額は7,715百万円であります。

(四半期連結損益計算書関係)

前第1四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)																				
※1. 販売費及び一般管理費の主要な費目及び金額は次のとおりであります。  (単位：百万円) <table border="0"> <tr><td>広告宣伝費</td><td>846</td></tr> <tr><td>販売促進費</td><td>1,600</td></tr> <tr><td>従業員給料手当</td><td>4,646</td></tr> <tr><td>退職給付費用</td><td>359</td></tr> <tr><td>賞与引当金繰入額</td><td>750</td></tr> </table>	広告宣伝費	846	販売促進費	1,600	従業員給料手当	4,646	退職給付費用	359	賞与引当金繰入額	750	※1. 販売費及び一般管理費の主要な費目及び金額は次のとおりであります。  (単位：百万円) <table border="0"> <tr><td>広告宣伝費</td><td>878</td></tr> <tr><td>販売促進費</td><td>1,277</td></tr> <tr><td>従業員給料手当</td><td>4,520</td></tr> <tr><td>退職給付費用</td><td>312</td></tr> <tr><td>賞与引当金繰入額</td><td>640</td></tr> </table>	広告宣伝費	878	販売促進費	1,277	従業員給料手当	4,520	退職給付費用	312	賞与引当金繰入額	640
広告宣伝費	846																				
販売促進費	1,600																				
従業員給料手当	4,646																				
退職給付費用	359																				
賞与引当金繰入額	750																				
広告宣伝費	878																				
販売促進費	1,277																				
従業員給料手当	4,520																				
退職給付費用	312																				
賞与引当金繰入額	640																				
2. 当社グループでは、建物の完成引渡し第2四半期・第4四半期に集中することから、通常、第1四半期の売上高の割合が相対的に低くなる傾向にあります。	2. 同左																				

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

前第1四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)																
※1. 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 (平成21年6月30日現在)  (単位：百万円) <table border="0"> <tr><td>現金預金勘定</td><td>19,614</td></tr> <tr><td>預入期間が3ヶ月を超える定期預金</td><td>—</td></tr> <tr><td>取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資(有価証券勘定)</td><td>22,000</td></tr> <tr><td>現金及び現金同等物</td><td>41,614</td></tr> </table>	現金預金勘定	19,614	預入期間が3ヶ月を超える定期預金	—	取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資(有価証券勘定)	22,000	現金及び現金同等物	41,614	※1. 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 (平成22年6月30日現在)  (単位：百万円) <table border="0"> <tr><td>現金預金勘定</td><td>18,889</td></tr> <tr><td>預入期間が3ヶ月を超える定期預金</td><td>△84</td></tr> <tr><td>取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資(有価証券勘定)</td><td>44,000</td></tr> <tr><td>現金及び現金同等物</td><td>62,805</td></tr> </table>	現金預金勘定	18,889	預入期間が3ヶ月を超える定期預金	△84	取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資(有価証券勘定)	44,000	現金及び現金同等物	62,805
現金預金勘定	19,614																
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	—																
取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資(有価証券勘定)	22,000																
現金及び現金同等物	41,614																
現金預金勘定	18,889																
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	△84																
取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資(有価証券勘定)	44,000																
現金及び現金同等物	62,805																

(株主資本等関係)

当第1四半期連結会計期間末(平成22年6月30日)及び当第1四半期連結累計期間(自平成22年4月1日至平成22年6月30日)

1. 発行済株式の種類及び総数  
普通株式 168,563千株
2. 自己株式の種類及び株式数  
普通株式 503千株
3. 配当に関する事項  
配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成22年4月27日 取締役会	普通株式	1,260	7.5	平成22年3月31日	平成22年5月28日	利益剰余金

(セグメント情報等)

**【事業の種類別セグメント情報】**

前第1四半期連結累計期間(自平成21年4月1日至平成21年6月30日)

当社グループの事業内容は、工業化住宅「パナホーム」の製造・施工販売及び戸建分譲住宅・宅地の販売等を行う住宅事業のみであるため、記載しておりません。

**【所在地別セグメント情報】**

前第1四半期連結累計期間(自平成21年4月1日至平成21年6月30日)

該当事項はありません。

**【海外売上高】**

前第1四半期連結累計期間(自平成21年4月1日至平成21年6月30日)

該当事項はありません。

**【セグメント情報】**

当第1四半期連結累計期間(自平成22年4月1日至平成22年6月30日)

当社グループは、工業化住宅「パナホーム」の製造・施工販売及び戸建分譲住宅・宅地の販売等を行う住宅事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(追加情報)

当第1四半期連結会計期間より、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」(企業会計基準第17号 平成21年3月27日)及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第20号 平成20年3月21日)を適用しております。

(金融商品関係)

当第1四半期連結会計期間末(平成22年6月30日)

前連結会計年度の末日に比べて著しい変動は認められません。

(有価証券関係)

当第1四半期連結会計期間末(平成22年6月30日)

前連結会計年度の末日に比べて著しい変動は認められません。

(デリバティブ取引関係)

ヘッジ会計を適用しているもの以外のデリバティブ取引はありません。

(資産除去債務関係)

当第1四半期連結会計期間末(平成22年6月30日)

当第1四半期連結会計期間の期首に比べて著しい変動は認められません。

(賃貸等不動産関係)

当第1四半期連結会計期間末(平成22年6月30日)

前連結会計年度の末日に比べて著しい変動は認められません。

(1株当たり情報)

1. 1株当たり純資産額

当第1四半期連結会計期間末 (平成22年6月30日)	前連結会計年度末 (平成22年3月31日)
1株当たり純資産額 670.24 円	1株当たり純資産額 693.70 円

2. 1株当たり四半期純損失金額

前第1四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)
1株当たり四半期純損失金額 16.04 円 なお、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額 については、1株当たり四半期純損失であり、また、 潜在株式が存在しないため記載しておりません。	1株当たり四半期純損失金額 15.48 円 なお、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額 については、1株当たり四半期純損失であり、また、 潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(注) 1株当たり四半期純損失金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)
四半期純損失(百万円)	2,696	2,601
普通株主に帰属しない金額(百万円)	—	—
普通株式に係る四半期純損失(百万円)	2,696	2,601
期中平均株式数(千株)	168,082	168,060

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

(リース取引関係)

当第1四半期連結会計期間(自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)

リース取引開始日が平成20年3月31日以前の所有権移転外ファイナンス・リース取引について、通常の賃貸借取引に係る方法に準じて会計処理を行っております。また、リース取引残高は前連結会計年度末に比して著しい変動は認められません。

## 2 【その他】

平成22年4月27日開催の取締役会において、次のとおり剰余金の配当を行うことを決議いたしました。

(イ) 配当金の総額……………1,260百万円

(ロ) 1株当たりの金額……………7円50銭

(ハ) 支払請求の効力発生日及び支払開始日……………平成22年5月28日

(注) 平成22年3月31日現在の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、支払いを行っております。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

# 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成21年8月4日

パナホーム株式会社  
取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 中村 基夫 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 池田 賢重 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているパナホーム株式会社の平成21年4月1日から平成22年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（平成21年4月1日から平成21年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成21年4月1日から平成21年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書及び四半期連結キャッシュ・フロー計算書について四半期レビューを行った。この四半期連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューは、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続により行われており、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べ限定された手続により行われた。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、パナホーム株式会社及び連結子会社の平成21年6月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。

# 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成22年8月3日

パナホーム株式会社  
取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 中村 基夫 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 池田 賢重 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているパナホーム株式会社の平成22年4月1日から平成23年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（平成22年4月1日から平成22年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成22年4月1日から平成22年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書及び四半期連結キャッシュ・フロー計算書について四半期レビューを行った。この四半期連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューは、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続により行われており、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べ限定された手続により行われた。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、パナホーム株式会社及び連結子会社の平成22年6月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。